

古代アメリカ学会 第18回西日本部会研究懇談会のお知らせ

第18回西日本部会研究懇談会を以下の要領で開催します。ふるってご参加ください。事前申し込みは不要です。また非会員の方も参加できますので、周囲に関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひお声をおかけ下さい。

〔研究懇談会タイトル〕

『マンガに描かれた古代アメリカ』

〔研究懇談会概要〕

今回の研究懇談会では『マンガに描かれた古代アメリカ』というテーマで、まずアンデスに関する報告を宮野元太郎会員（京都外国語大学）が、次にメソアメリカに関する報告を小林貴徳会員（専修大学）が行います。これまでの研究懇談会では、考古学的な調査や文化財に関連する発表が中心となってきましたが、今回の発表では、マンガの中にどのようにメソアメリカやアンデスの古代文明が描かれているのかという、これまでとは異なる視点からの、古代アメリカのイメージに関する研究報告となります。

なお、マンガという非会員の方にも比較的関心をもっていただきやすいテーマとなっておりますので、非会員の方にも積極的にご参加いただければ幸いです。

※この研究懇談会の内容に関しましては、後日会員向けに動画配信する予定です。

〔プログラム等〕

・日時：2026年9月26日（土）13:30～16:30

・プログラム

開場 13:00

趣旨説明 13:30～13:40

発表1 13:40～14:40

小休憩 14:40～14:50

発表2 14:50～15:50

小休憩2 15:50～16:00

質疑応答 16:00～16:30

閉会挨拶 16:30～16:40

・会場：関西学院大学梅田キャンパス 1005 教室（アプローズタワー10F）

・主催：古代アメリカ学会

・連絡先：西日本部会研究懇談会世話人 土井正樹（masaki.doi@kwansei.ac.jp）

古代アメリカ学会事務局（info@americacantigua.org）

（上記アドレスの＊を@に換えて下さい）

- 発表1：「マンガに描かれた古代アンデス：冒険と黄金郷」
発表者：宮野元太郎（京都外国語大学）
- 発表2：「マンガに描かれた古代メソアメリカ：『謎』『不思議』イメージの形成と展開をめぐって」発表者：小林貴徳（専修大学）

（発表1・2 合同要旨）

古代アメリカ文明は、日本のマンガのなかで、どのような世界として描かれてきたのだろうか。本研究では、日本のポピュラー・カルチャーを代表するマンガが、古代アメリカ文明のイメージ形成に関わる重要な媒体の一つであったことに着目する。古代メソアメリカとアンデスの文明に関わる要素を取り入れたストーリー・マンガを収集し、作品を初出年代ごとに整理したうえで、その描写や物語上の役割、さらに作品が発表された時代の社会的背景との関わりを検討する。

メソアメリカについては、日本では必ずしも十分に知られてこなかった一方で、「謎」「不思議」といったイメージが先行してきた点に着目する。関連する要素をモチーフとするマンガを年代ごとに提示し、描写や舞台のモデル、物語との関係、およびその傾向を整理する。作品が発表された時代の社会的背景を踏まえ、メソアメリカ的なイメージがどのような時代的関心のもとで物語に取り入れられ、その表象がどのように変化してきたのかを検討する。

アンデスについては、神秘、密林、冒険、黄金郷といった要素と、その物語上の役割を整理する。なかでも、アマゾンの密林を探検し、その果てに遺跡や財宝を発見する定型的な物語構造を「黄金郷冒険譚」として抽出した。この構造は複数の作品で繰り返し描かれながら時代とともに変容し、アンデスの役割も、財宝を探す冒険の地から、旅を通じた自己探究の場へと展開していく。

二つの発表を通じて、メソアメリカとアンデスがそれぞれどのようなイメージと結び付けられ、時代ごとの関心や物語のなかでどのように描かれてきたのかを示す。これにより、考古学的知識と創作的想像力が交錯するマンガ表現を通して、日本社会における古代アメリカ文明イメージの多様性と、その歴史的变化について考察する。